

# 本太中だより

第9号

さいたま市立本太中学校

048(886)4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

令和8年1月8日

## 見えない花を育てる教育 心の根幹を養い、未来を拓く一年に

校長 田中 一秀

1月6日に発生した島根県東部を震源とした地震では、多くの被害が出てしまいました。被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、平穏な日々を取り戻せますようお祈りいたします。

令和8年が明けました。旧年中は、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をいただき、教育活動を展開することができました。皆様にとりまして、そして、本太中学校にとりまして、今年が良い年でありますよう願っております。

さて、先日、書店に行った際に、以前に読んだ本\*が今でも大学生に読まれていると紹介されていたのを見て、その本を読みなおしてみました。本にはこうありました。「われわれは、花を見て、枝葉を見ない。かりに枝葉は見ても、幹には目を向けない。まして根のことは考えようとしめない。とにかく花という結果のみに目をうばわれて、根幹に思い及ばない」。この部分を読んだ私は、まさに自分のことを言われたのではないかと思いました。そして、「美しい花だけに目を奪われ、根や幹を育てる努力を怠ってはいないか」、そんな問いかけを受けた気がしました。子どもたちの知識や成果という“花”を咲かせるためには、見えない部分、すなわち根幹をしっかりと育てることが不可欠です。子どもたちの根幹を育てるとはどのようなことなのか自問し、子どもたちの根を養う教育を心がけていきたいと思えます。

しかし、花は必ずしも外から見えるとは限りません。「イチジク」は漢字で「無花果」と書きます。「花」が“無”い“果”物と漢字であてられましたが、実際には花が咲かないのではなく、袋のような器官の内側に咲いているのです。外から見える成果だけがすべてではありません。子どもたち一人ひとりの内側には、それぞれの色の花が咲いています。その花を信じ、育て、子ども自身が気づけるようにする——それが私たちの教育の使命です。そのための教育を保護者、地域の皆様と共に考え、実践していきたいと思えます。

本太中では「心の根幹を育てる教育」を重視し、こうした理念を具体化するため次のような取り組みを進めています。

- ・自分の声と仲間との対話を大切にし、自己理解と他者理解を深めます。
- ・生徒同士が支え合い、多様性を認め、温かい雰囲気を広げます。
- ・地域との交流を通じ、人と人とのつながりの大切さを学びます。

こうした取り組みは、見えない心の根を養い、やがて大きな幹となり、子どもたちの未来を支える力になると考えております。

志を新たにする新年にあたり、「すべては本太中の子どものために」を合言葉に、次の10年に向けて、さらにその先50年を拓く教育の創造を目指し、教職員一同、全力を尽くすことを、今年の私の決意といたします。本年もよろしくお祈りいたします。

\*外山 滋比古 思考の整理学 1983年